

◆ 今年度各教科の目標・方策

教科	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ・表現力をつけさせる。(話す力・書く力) ・読解力をつけさせる。(読む力) 	<ul style="list-style-type: none"> ・短作文や要約(10分で200字)を単元の最初や終了時に書かせる。クラスの80%の生徒ができるようにする。 ・国語表現の時間や総合学習の時間に、自己PRを口頭で行う。 ・高校3年生は9月までに1分間以内で自己について過不足なくアピールできるようにする。 ・全校一斉漢字テストで80%の生徒が合格できるようにする。
地公 歴民 社 会	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的事項の定着を図る。 ・資料や統計を読みとる力を付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・单元ごとに小テストを実施する。 ・作業学習を積極的に取り入れる。 ・遅れがちな生徒に対して補習を実施する。
数 学	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別学習と少人数指導を活用し、個の能力に応じた指導を柔軟に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別に使用する教材の難易度を変え、習熟度の低いクラスには基礎・基本の問題を反復し、習熟度の高いクラスには進研模試に対応できるような応用問題に取り組みさせる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な表現・処理能力の拡充を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本問題演習の反復を行い、週末課題テストの平均点が80点以上を目指す。
	<ul style="list-style-type: none"> ・数学的な見方・考え方を深め、応用力の拡充を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休暇時の課題や補講、校外模試を通して、応用力を養う。
理 科	<ul style="list-style-type: none"> ・自然に対する関心や探求心を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験・観察を行い、興味関心を引き出す。
	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な課題の配布、小テストの実施により、基礎学力の定着を図る。
	<ul style="list-style-type: none"> ・受験対策を充実させ、応用力の向上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習や長期休業中および放課後に進学講習を実施し、応用力を養う。
音 楽	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の基本技能を身に付け、音楽を積極的に楽しむ姿勢を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各分野の学習をバランス良く配置し、それぞれを関連付けながら活動を展開する。 ・発表の機会を年間2回以上設け、表現意欲を高める。 ・中学校でリコーダーグレードを実施し、各自の進度に応じて積極的に学べるよう支援する。
美 術	<ul style="list-style-type: none"> ・創造的な表現力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の周辺や地域の特徴等を教材として取り上げる。
保 健 体 育	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の楽しさを体験させ、進んで学習に取り組む態度を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の力を知ることができる場の設定 ・力の変化を知ることができる場の設定(記録測定、実技を通して他との比較、自己評価カードの工夫)
	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の能力に応じた課題の設定と解決に向け練習を工夫することができる力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習資料や学習カードの工夫と提示
	<ul style="list-style-type: none"> ・集団で協力して活動する態度を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動を取り入れた授業の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・体力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団の特徴を踏まえ、適した補強運動の導入

教科	具体的目標	具体的方策															
技術家庭	<ul style="list-style-type: none"> 生活に必要な基礎的な知識と技術の習得を通して、生活を工夫し創造する能力と態度を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活科学の知識の習得、実習、製作を通して生活に生かす態度を育成する。 イメージしたことを、具体的に表現し、生活を改善する態度を育成する。 															
英語	<ul style="list-style-type: none"> 異文化を理解する広い視野を持ちながら、自分の意見を述べることができる国際人を養成する。 言語の持つ発音、文法、意味段落の構造などに対する理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 英検受験を奨励し、特別補習を年3回行う。また、一次試験合格者全員に二次面接の練習を実施する。なお、目標とする級は 中1 5級 中2 4級 中3 3～準2級 高1 準2級 高2 準2～2級 高3 2級 とする。 定期考査期間を除く毎週末、週末課題を与え、その内容に則した課題確認テストを行う。不合格の生徒に対しては、再テストや再提出課題などを与える。 															
商業	<ul style="list-style-type: none"> 前向きに授業に取り組む態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の授業を大切にし、予習・復習の習慣を身に付けさせる。 内容の定着を図るため、毎時小テストを実施する。(座学科目) 															
	<ul style="list-style-type: none"> 検定試験を積極的に受験させ、合格を目指させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 中高問わずに検定試験を幅広く校内に案内して希望者を募り、個別指導を行う。(ワープロ、秘書、電卓、簿記) 受験者数、合格率の目標 ※合格者/受験者数(平均合格率) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H19</th> <th>H20</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ワープロ</td> <td>15 / 22 (68.1%)</td> <td>24 / 30 (80%)</td> </tr> <tr> <td>電卓</td> <td>30 / 48 (62.5%)</td> <td>48 / 60 (80%)</td> </tr> <tr> <td>秘書</td> <td>25 / 37 (67.5%)</td> <td>40 / 50 (80%)</td> </tr> <tr> <td>簿記</td> <td>15 / 19 (78.9%)</td> <td>20 / 25 (80%)</td> </tr> </tbody> </table>		H19	H20	ワープロ	15 / 22 (68.1%)	24 / 30 (80%)	電卓	30 / 48 (62.5%)	48 / 60 (80%)	秘書	25 / 37 (67.5%)	40 / 50 (80%)	簿記	15 / 19 (78.9%)	20 / 25 (80%)
		H19	H20														
ワープロ	15 / 22 (68.1%)	24 / 30 (80%)															
電卓	30 / 48 (62.5%)	48 / 60 (80%)															
秘書	25 / 37 (67.5%)	40 / 50 (80%)															
簿記	15 / 19 (78.9%)	20 / 25 (80%)															
<ul style="list-style-type: none"> 服装・身だしなみ・挨拶をしっかりとさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時、挨拶時にしっかり確認し授業を始める。 ビジネスマナー教育も積極的に授業に取り入れる。 																
情報	<ul style="list-style-type: none"> 全校生徒に、正しい情報活用能力を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業・諸活動における情報機器の活用促進を図る。 (1) 生徒作成プリントの電子データ化 (2) 各行事での様子をデジタルカメラで撮影させ生徒の視点から記録を残す。 (3) コンピュータ室前廊下に「学校とコンピュータ」新聞、情報に関する記事の掲示を行う。 (4) 携帯電話使用上の注意を適宜行う。 															
	<ul style="list-style-type: none"> 検定試験を積極的に受験させ、合格を目指させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 中高問わずに検定試験を幅広く校内に案内して希望者を募り、個別指導を行う。(ワープロ) 															